

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

第1回 ゲスト 高階秀爾さん ●美術評論家、文化審議会会長

|                  |   |
|------------------|---|
| 文化で日本を元気に.....   | 4 |
| 長官コラム 文化の抜穴..... | 9 |

## 特集 文化を大切にする社会の構築に向けて

インタビュー

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 文化を大切にする社会の構築に向けて<br>銭谷真美文化庁次長..... | 10 |
|-------------------------------------|----|

論文

|                        |         |
|------------------------|---------|
| 文化芸術は「ゆとり」ある日常の呼吸..... | 三善 晃・12 |
|------------------------|---------|

施策紹介

|                     |    |
|---------------------|----|
| 平成14年度文化庁の重点施策..... | 14 |
|---------------------|----|

ことばの探検①

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 「おざなり」と「なぞり」..... | 山口仲美・22 |
|-------------------|---------|

インタビュー 未来の扉①

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 岸啓介さん(メディアアート作家)..... | 23 |
|-----------------------|----|

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート①

|   |    |
|---|----|
| 美術館でのボランティア<br>「わーくしょっぷの会」の活動<br>熊本県立美術館..... | 26 |
|---|----|

舞台の現場から 舞台を支える人たち①

|                |         |
|----------------|---------|
| 歌舞伎の舞台の仕事..... | 石井伸二・27 |
|----------------|---------|

日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編13

|                      |    |
|----------------------|----|
| 和田安弘さん(建造物模型製作)..... | 28 |
|----------------------|----|

在外研修だより 新進芸術家在外研修報告①

|                 |    |
|-----------------|----|
| 森永明日夏・砂川幸子..... | 29 |
|-----------------|----|

文化ボランティア通信

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 「文化ボランティア通信」第二号の概要..... | 30 |
|-------------------------|----|

特別寄稿

保存修理と社会の関係をどう再構築するか

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| 連載「保存修理の社会学」を読んで..... | 大河直躬・32 |
|-----------------------|---------|

文化庁ニュース

|                      |    |
|----------------------|----|
| 平成13年度文化庁賞上優秀作品..... | 34 |
| 平成13年度文化庁優秀映画作品..... | 36 |
| 文化庁月報平成13年度総目次.....  | 37 |

国立国際美術館

|   |    |
|---|----|
| 福嶋敬恭 こころの中のこころ<br>MIND OF UNIVERSE..... | 40 |
|---|----|

京都国立近代美術館

|                     |    |
|---------------------|----|
| 日本画への招待一人・花・風景..... | 41 |
|---------------------|----|

奈良国立博物館

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 特別展 大仏開眼1250年<br>東大寺のすべて..... | 42 |
|-------------------------------|----|

京都国立博物館

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 栄西禅師開創800年記念特別展覧会<br>京都最古の禅寺 建仁寺..... | 43 |
|---------------------------------------|----|

東京国立博物館

|                 |    |
|-----------------|----|
| 旅と街道—東海道編—..... | 44 |
|-----------------|----|

イベント案内

|                   |    |
|-------------------|----|
| 新国立劇場スポットライト..... | 45 |
| 5月の国立劇場.....      | 46 |
| 芸術文化振興基金ニュース..... | 47 |

|       |  |
|-------|--|
| 今月の表紙 | 平成13年度文化庁メディア芸術祭<br>デジタルアート[ノンインタラクティブ]部門大賞<br>「ANJYU(安重)」<br>大場康雄 |
|-------|--|

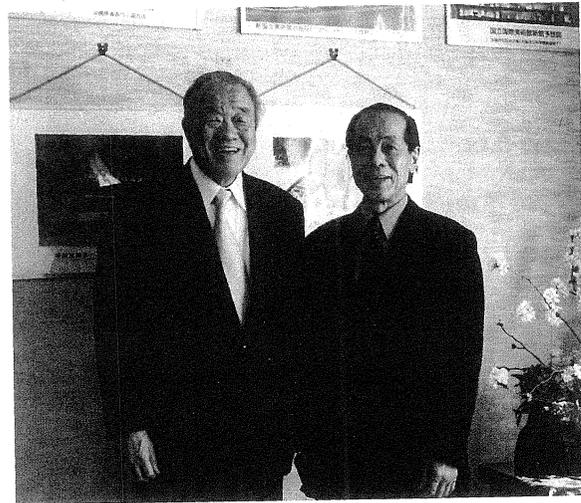
# 文化で日本を元気に

## プラド美術館展

河合 高階先生は、平成四年から一二年まで国立西洋美術館の館長を、それと現在は文化審議会の会長もしていただいております。本当にありがたいことです。

「プラド美術館展」を昨日見せていただいたんですけど、そもそも先生が話の口火を切られてまじめられたそうですね。

高階 国際的な展覧会というのは、大体四年、五年、場合によってはもっとかかるんです。「プラド美術館展」も五年ぐらいいかりました。館員もよくやってくれましたし、プラド側も館長が随分協力してくださっていて、あれだけのものができたんですね。



絵が直接に見られますのでね。やっぱり違いですね、迫力が。高階 スベインのもの不思議に外国に出ていないんです。行ってみると、「どうしてこんな

なにとさんあるんだろう」と思うようなものがありますが、それを選んで出していたたものから、いい展覧会になったと思います。

河合 そうですね。日本人の方も、どこかで見たことがあるという絵がだいぶあるんじゃないですか。

高階 ええ。美術、音楽もそうだと思いますが、我々が実際に接して「あ、これだな」というのは、文化の大事なところだと思っんです。

## 文化の集まる上野の山

河合 上野に美術、文化が集まってきたという意味はすごくありますね。

高階 ありますね。上野には、博物館や美術館だけではなく、文化会館もごいます。ワシントンのスミソニアンや、パリのルーブル美術館周辺とか、色々なものが集まると、そこが拠点になるんですね。

河合 そうそう。そこへ人が集まってくる。そして楽しむというか、ちよつとそういう雰囲気日本もなってきたのかなと思いました。高階 文化というのはいろんなものが重なり合っているもので、人々が集まる場所が必要だと思っんです。

河合 平日だったからでもありますけど、やはりどうしても女性が多いですね。

高階 これは昔からそうですね。日本の文化は歴史的にもそうじゃないでしょうか（笑）。ただ、これからは例えば普通のサラリーマンの方が見られるように、夜まで開けるとかね。外国では、職員にそれなりの手当ではして、とちかく夜まで開けるといのが大勢になっておりますね。

## 美術館のボランティア

河合 そういところでボランティアを使うわけにいかんのでしょうかね。つまり、「働いている人たちによい絵を見せる会」なんかかつかって。

高階 システムをつくれればいけると思っんです。ボランティアも、ただやりたいですと言っても、何をやっていいかわからないとかがありますから。それから、今日はちよつとということがあつては具合が悪い。

河合 そうそう。ボランティアというのは半可な気持ちでできるもんじゃないということを初めに言っておかないと、何か自分がいいこととしてるんだから、都合悪かつたらやめるわというのでは困る。

高階 アメリカですと、ナショナルギャラリーでは、コースで研修みたいなものをやっているんです。それを受けて、試験をやつて、通つた人だけをとということですね。一応ステップを踏



んでボランティアをお願いしているようです。

河合 これは私は日本で相当うまく広がるんじゃないかと思っんです。そのときに安易さをなくする。やつぱり研修を受けて、ここまですつたんだというか、生半可にやつてないというね。

高階 それは大事なことだと思います。

河合 勉強するのうれしいですね。

高階 美術館というのは楽しむ場所でもあるし、勉強する場所でもあり、勉強がまた楽しいという場所なんですね。

河合 大体ね、強制されるとおもしろくないけど、自分がその気になると、すごくやる気が出てきますから。



たかしな・しゅうじ 昭和29年フランス政府給費留学生として、パリ大学附属美術研究所で近代美術史を専攻。34年帰国後、国立西洋美術館主任研究官、46年東京大学文学部助教授を経て、54年教授に就任。平成4年退官し、名誉教授。同年～12年国立西洋美術館館長を務める。13年から、文化庁の文化審議会会長を務める。



高階 そういふ場なり雰囲気なり、方向づけを、美術館でも音楽堂でも色々考えなきゃいけないと思いますね。イベントをやることも同じことだと思っんです。

**下から盛り上げる「公」** おおやけ

河合 外国ではイベントの企画まで全部やるところがありますね。それこそ思いつきただけでは、絶対だめですわね。

高階 その場合に、国の役割が大きいと思うんです。任せっきりにするのではなく、国が何でもやるわけでもない。うまくつなぎをつけるのです。

河合 小淵総理のときに、「二世紀日本の構想」懇談会で、個の確立と新しい「公」の創造ということをやったわけですが、公と言うと、何かいつも上からくると皆思ってるんですが、そうじゃなくて、下から盛り上げる公がある。

高階 なるほど。

河合 公の活動が下から盛り上がってやってくるのを、上が勝手に受け入れなきゃね。

高階 そうなんです。切れちゃっていると具合が悪いと思います。

河合 そのつなぎ方みたいなものをお互いに研究する価値がありますね。

高階 はい。美術館だと美術の専門家が学芸員ですが、持つてくるだけではなくて、自分たちのところもあるんだと。それを十分見出して、発信するということですね。もう一つは、自分たちが色々新しいものをつくっていく。その場合に、ほかの施設や、場合によっては外国とも協力することによって、新しい動きを地方から盛り立てていくと思うんです。

河合 そういふのに国がうまくつないでいく、これが大事ですね。

高階 呼び水を入れるとか、ネットワークで色々つなぎをつけていくとか、国でやっていただくことが随分あると思っんです。

**日本のピカソを見るツアー**

河合 これは、ある美術館長さんと雑談していたときに、言うてたんですけれど、例えば棟方志功であれば、パレットと集めてきて見るのでは

高階 呼び水を入れるとか、ネットワークで色々つなぎをつけていくとか、国でやっていただくことが随分あると思っんです。

河合 そういふのに国がうまくつないでいく、これが大事ですね。

高階 呼び水を入れるとか、ネットワークで色々つなぎをつけていくとか、国でやっていただくことが随分あると思っんです。

河合 そういふのに国がうまくつないでいく、これが大事ですね。

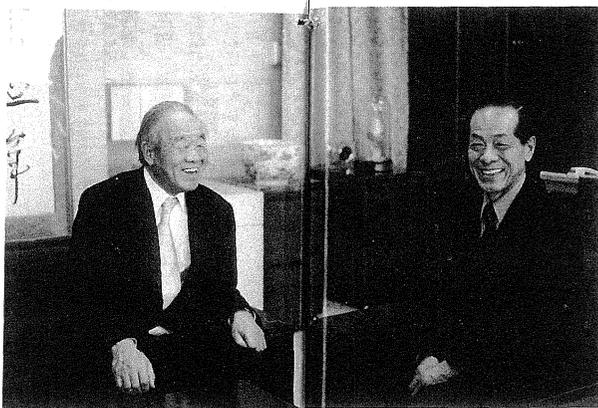
高階 呼び水を入れるとか、ネットワークで色々つなぎをつけていくとか、国でやっていただくことが随分あると思っんです。



員でいるんですが、例えば経営とか、行政のこととはよくわからない。逆に行政の方は美術専門のことがわからない。その辺をうまくつなげていくシステムが、今まで必ずしも十分でなかったところがあります。

**ジャンルを超えた活動**

高階 イベントなんかにしても、舞台と美術とか、ジャンルを超えた活動はこれから大事だと思っんです。そういう意味では、拠点がある



**地方からの文化発信**

河合 地方で色々文化的なことが起こるのは非常にいいと思っんです。

高階 今までは地方も、何となく中央のものを持つてくることを考える。それも大事だと思っんです。

河合 日本はそう言っても、いろんなものをまだまだちゃんと持つてる国じゃないでしょうか。

高階 無形の文化遺産も含めて、それぞれの地域で守つてられるものがある。しかし、都会を見ると自然がどんどん壊れているとか、そういう面もある。今が大事だよということをやつてきたらいいと思っんです。

河合 みんなだいたい自覚してきてますからね。高階 やつとわかってきた。継承していく場合に、これが大事です。ヨーロッパにはヨーロッパのいいものがあるけれども、日本人の感受性は例えば自然とつながっているとか、日本に

**総合的な日本文化の継承と発信**



て企画を立てる。そうすればいいと思っんです。

河合 旅行会社は海外ばかり考えんと、そういう文化的ツアーを考えたらどうかと思っつて。

高階 ついでに土地の名産を色々楽しみながら。

河合 そのときに、その土地のボランティアが活躍して、こういう名所旧蹟があるということも出てきたりとか。

高階 あとは縦の継承ですよね。古いものをどうやって受け継いでいって、次に伝えるかということが大事で、ほつておくと忘れられちゃうということがありますからね。

も伝統的なものがあつて、実はそういうのが大事だということ、世界に向かってとも言えると思うんです。

河合 今は、日本の美術でも、個展を外国でやったり、そういうのが増えてきたのところがいいですか。

高階 はい。それだけでなく、現代作家は国際的に活躍している方がいます。それから、車とか、電子製品はよくできています。質もいいし、なかなかデザインも優れている。そういうのがみんなバラバラなんです。私は、やっぱり文化的につながっているんだろうと思うんです。

河合 なるほど、なるほど。

高階 車が優秀なものも、伝統的な文化がいいのも、それから現代作家も、実はそこに文化的なつながりがあるということを見せていく、これが大事だと思うんです。

河合 そのつながりの解説がすごく大事になりますね。

高階 それはこれから文化に携わる者の非常に大きな役割ですね。

### 日本人と自然とのつながり

河合 以前、華道の川瀬敏郎さんと一緒にアメリカへ行きました、私は日本人の心の話をすれば、川瀬さんは花を立てるといふ企画をやっていますね。

に、違いを見つけたときにかたくなになつてはいけません。今の若い人なんか見ると、知らないところもあるけども、新しいものも平気で受け入れるような面もありますね。

### 文化のつなぎと予算の充実

高階 そういふところは生かしていくようにしていきたいと思うんです。ですから、国が様々な国内国外でのつながりに色々とお力をいただかなければいけないことが、これから大きくなると思いますね。

河合 やっぱり色々なつながりですね。それが



たんです。私は解説するわけじゃないし、川瀬さんは、言も言わない。しかし、僕の話の聞いているから、川瀬の花がわかったとか、川瀬の花を見てみると、おまえの言いたいことがわかったと言われたんです。そういうのもおもしろいと思うんです。

高階 花に対する感覚でも、外国の方と話しているとき気がつくことがあります。絵を見ますと、日本では、地面から生えてる花をよく描くんです。生け垣にアサガオがまわりついたり、黒田清輝のユリとかね。ところが、西洋では自然に生えてる花つてます絵に出てこないんです。

河合 あーっ。

高階 日本人の自然とのつながりというのが、そこで出てきちゃうんですね。日本だけ見てもわからないし、向こうだけ見てもわからない

いけど、並べてみると「あ、何か違うな」ということが出てくる。

河合 私ね、絵画の場合、特にそう思うんですが、文化差が歴然としてきますよ。歴然とするんだけど、文化差を超えて、みんな「いいな」と思うんですよ。

高階 そうなんです。そこがおもしろいところではないですか。

河合 不思議ですね。ただ、文化差の壁が大き過ぎて、なかなか受け入れられないということとはあり得ますね。

高階 その場合に、文化戦略が必要だと思っんです。全然別じゃないかと思うものをうまくつなげるとかね。

河合 つながらないものがその人の心の中でつながる。それは一種の新しいものになるんですね。

高階 そうですね。今、いろんな異文化がどんどん入ってくるというけども、グローバルになればなるほど違いがわかってくる。そして、「違う、違う」と言っているだけではだめなんですね。

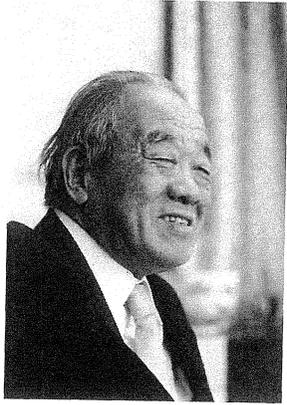
河合 「違うから、おまえらにはわからないから」と言るのが一番いけない。

高階 そうではなくて、違うんだけれども、なるほどという面がある。それは文化の持っている大事なことだと思っんです。それと同時に

ら何といたつて予算ですわね。

高階 おっしゃるとおり、最後にはそれをせひ申し上げたかったです。

河合 文化芸術振興基本法が通つたんだから、



予算を盛って、ここぞというところでそれを有効に使っていただく。経済が逼迫しているから、文化はやめとこうというのは大間違いで、文化を活性化してこそね。

高階 経済的な効果もあるし、それだけではなくて、やっぱり一番大事なことだろうと思っいます。

河合 先生どうもありがとうございました。  
(平成二十三年三月七日)

※「ブラド美術館展 スペイン王室コレクションの美と栄光」は、国立西洋美術館において六月十六日まで開催中。

## 不良債券よりも良質文化を

### 文化庁の抜穴 河合隼雄

ら取り入れた文化にしろ、実に質が高く、豊かなものをもっている、ということである。

ところが、新聞を見ると「不良債券」を中心に、暗い話題ばかりで、何だか日本中が沈みこんでいるようである。ここでもっと「良質文化」についてPRをし、日本を明るくする努力をすることが、長官としての私のひとつの役割と考えている。皆さんの援助を得て頑張りたいものである。

「文化庁の抜穴」というコラム名を見て、「ハハーン」と思う人は、相当に年輩の方であろう。アンドレ・ジッドの同名の小説は、私たちの若い頃によく読まれたもので、法王庁をめぐって、とても面白い詐欺師の活躍する面白い作品である。まったく思いがけず、法王庁ならぬ文化庁の長官に就任することになった。何だか抜穴から入りこんだような感じである。長官になつてまず感じたことは、日本は伝統文化にしろ、外国か

◆長官対談◆  
【文化人の本音】河合雄雄文化庁長官対談  
野依良治名古屋大学名誉教授  
【長官コラム文化庁の抜六】

◆特集◆  
国際交流年の推進

―「日本年・中国年」及び「日韓国民交流年」  
【文化庁提言】  
2002年の日韓年・日中年について  
村田直樹国際課長

【寄稿】  
日韓国民交流年について  
駐日韓国大使館・金院長  
日本年・中国年について  
駐日中国大使館・張参事官

【事例紹介】  
日韓共同制作演劇  
【その河を越えて、5月】……平田オリザ  
【イベント案内】  
文化庁の関連事業紹介

◆連載◆  
【ことばの探検】……山口仲美静岡大学教授  
【インタビュー】未来の扉  
藤原紀香(女優)

【いきいきミュージアム】美術館・博物館事業レポート  
こどもミュージアムスクール

【舞台の現場から】舞台を支える人たち  
国立能楽堂

【子どもたちから見た伝建保存地区】  
富山県平村相倉・三重県関町関宿

【日本の伝統美と技を守る人々】  
組踊道具製作・島袋光史

【在外研修だより】  
在外研修員 森永明日香・砂川幸子

【文化ボランティア通信】

◆文化庁ニュース◆  
文化財新指定  
平成一三年度芸術選奨  
平成一三年度文化庁舞台芸術創作奨励賞

編集後記

今月号は、「文化を大切に社会の構築に向けて」というテーマで特集を組みました。「文化を大切に社会」とはどういう社会を言うのでしょうか。私たちの生活を少し振り返ってみましょう。最近、美術館・博物館に足を運ばれましたか？歴史的な文化遺産を訪ねられましたか？音楽に耳を傾ける時間はありましたか？話題

の映画を観に行きましたか？

文化に触れている時、私たちを取り巻く時間・空間に身を任せながら、文化に触れるとき、私たちは日頃の喧噪を忘れ、ほっとするはずです。

難しく考える必要はないと思います。「文化を大切に社会」とは、人々がほっとする時間をもてる社会なのではないでしょうか。◎

●ホームページアドレス●  
<http://www.bunka.go.jp>

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の見聞へお寄せください。

文化庁月報 4月号 (通巻403)

平成 14年 4月 25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : <http://www.gyosei.co.jp>

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい 営業部 広告課

電話 03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2002 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙再生紙を使用しております。